

## 第94期部門長挨拶

部門長(第94期) 佐々木 直栄



日本機械学会技術と社会部門の第94期（2016年度）部門長を仰せ付かりました日本大学工学部の佐々木直栄でございます。副部門長の神谷和秀先生（富山県立大学）や幹事の高橋芳弘先生（千葉工業大学）をはじめとする運営委員会委員の皆様のご協力を得まして、2016年度の本部門の円滑な運営に努めていく所存ですので、何卒よろしく願いいたします。

私事ですが、2009年度までの21年間住友軽金属工業株式会社研究開発センター（現在の株式会社UACJ技術開発研究所）に籍を置き、主に熱交換器材料の研究開発に従事しておりましたが、縁あって、2010年度から日本大学工学部（福島県郡山市）の出身研究室にお世話になり、約1年後の2011年3月11日の東日本大震災による福島原発事故を身近に経験し、これまた縁あって、2012年度に本部門の幹事として部門運営に携わり、現在に至ります。

企業時代には、経営方針に沿った研究開発を進めることに邁進しておりましたし、大学に赴任してからまだ6年しか経過しておりませんので、本部門の運営に必要な経験を十分に積んでいるとは言えない部分も多々あると懸念しております。皆様の温もりに満ちたご指導ご鞭撻を頂きながら、使命を全うできれば幸いと考えておりますので、何卒よろしく願いいたします。

本部門の役割につきましては、『“機械工学”と“社会”とのインターフェース役』、『機械技術者が築き上げてきた技術を社会に浸透させ、根付かせること』など、歴代部門長を務められた諸先輩方から様々な、また的確な表現で示されてきました。私自身は、“社会”という言葉のスケールの大きさに圧倒されてしまい、正直なところ、冷静な思考がなかなか進まない状態ではありますが、本会において最も広い領域を対象とする基盤的な部門であることは誰もが認める事実であり、世の中の様々な局面の変化に応じて、その役割も変化しなければならないのではないかと、漠然とではありますが、考えております。そういう意味では、『様々な局面において“社会”が望む“技術”に関する情報を的確なタイミングで発信すること』

も本部門の役割であると言えるのではないかと考えます。福島を拠点として活動している私自身も、東日本大震災からの復興途上にある福島県民の皆さんがどのような情報を望んでいるのかを日々考え、大学での工学教育活動やエネルギーの高効率利用に関する研究活動を通して、情報発信に努めています。

110周年記念事業として着手された日本機械学会機械遺産認定事業では、2007年度7月に「小菅修船場跡の曳揚げ装置」（機械遺産第一号）をはじめとする25件が認定され、本年度までに計83件が認定されました。本会の基幹事業として更なる発展が期待され、本部門からの継続的な協力貢献が益々求められるものと考えられます。

1997年10月29日（水）に東京大学生産技術研究所で初回が開催された本部門のイブニングセミナーは、毎月最終水曜日に開催される情報発信イベントとしてすっかり定着し、本年度中に200回を数えることは確実です。まさに“揺り籠から墓場まで”という比喩が相応しいほど充実した情報を発信し続けており、今後も様々な局面において“社会”が望む広範囲な“技術”に関する情報をタイムリーに発信していくことが期待されます。

1999年11月21日（土）～22日（日）に、公開研究会・講演会・見学会“技術と社会の関連を巡って：技術史から経営戦略まで”として、京都大学で初回が開催された本部門の講演会・見学会は、その後、講演会・見学会“技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる”と変更して、本年度で18回目を迎えることとなります。近年では、技術、工学、環境、設計、およびCADなどに関する教育に関わる情報発信が主となり、機械技術史や工学史に関わる情報発信がそれに続いています。今後は、本部門の競技会イベントである新☆エネルギーコンテスト（本年度で9回目）や低温度差スターリングエンジン競技会・発表会（本年度で6回目）の開催報告や優秀作品に関する講演発表を積極的に取り込んでいきたいと考えています。

2002年10月20日（日）～21日（月）に京大会館で初回が開催された本部門の経営と技術移転に関する国際会議（ICBTT）は、隔年開催で、本年度で8回目を迎えることになり、国際的な情報発信イベントとして、着実な成果を挙げていると言えます。本会議での講演内容の多くが本会英文学術誌に投稿されることも期待されます。

このような情報発信を持続可能にするためには、本部門に関わってくれる若い世代を効率的に発掘し、部門登録者数を増加させることが必要と考えますので、運営委員会委員の皆様には、まず自分の身近なところから、自分の後継者として期待できる若い世代の方々に部門登録を推奨していただきたいと考えます。

若い世代への世代交代を円滑に進めるためには、本部門の成り立ちや歴史などをしっかりと理解し、次の世代に伝えて行くことも重要と考えます。そのための足掛かりとして、部門長経験者の皆さんで構成されるアドバイザーボードを組織することを今期中に実現したいと考えますので、よろしく願いいたします。

末筆ではありますが、本年の4月14日から発生した熊本地震で大きな被害に遭われた皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

(2016.9.13 日本大学 佐々木 直栄)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

---

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレター No.34

(C)著作権: 2016 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門